



2021年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年7月10日

上場会社名 株式会社 柿安本店
コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2020年7月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第1四半期の業績(2020年3月1日～2020年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第1四半期	6,958	35.2	594		589		665	
2020年2月期第1四半期	10,745	1.2	650	26.3	680	29.2	430	37.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第1四半期	63.60	
2020年2月期第1四半期	41.11	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第1四半期	18,045	13,884	76.9
2020年2月期	20,133	15,333	76.2

(参考)自己資本 2021年2月期第1四半期 13,884百万円 2020年2月期 15,333百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		0.00		75.00	75.00
2021年2月期					
2021年2月期(予想)		0.00		75.00	75.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年2月期の業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

2021年2月期の業績予想につきましては、現時点では合理的に算定することが困難なことから未定としております。
なお、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期1Q	12,446,700 株	2020年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2021年2月期1Q	1,978,814 株	2020年2月期	1,978,814 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期1Q	10,467,886 株	2020年2月期1Q	10,467,886 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

新型コロナウイルス感染症による影響が見込まれることから、現時点では業績予想の算定が困難であります。

従いまして、2021年2月期の業績予想は未定とさせていただき、影響額の算定が可能となった時点で改めて開示いたします。

今後の見通しにつきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により、急速に悪化し極めて厳しい状況が続きました。

当社が属する食関連業界においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きく、防止策として都心部を中心とした百貨店・量販店・駅ビル等施設の休業や営業時間の短縮に加え、全国規模での移動抑制及び外出自粛などの対策が余儀なくされる等、経営環境は非常に厳しい状況となりました。5月下旬に政府の緊急事態宣言は全面解除されましたが、未だ世界的には新型コロナウイルス感染症の脅威は続いており、予断を許さない状況が続いております。

このような環境の中、当社におきましては、お客様及び従業員への新型コロナウイルス感染症拡大防止を第一に位置づけ、従業員に対してマスク着用、日々の検温報告等の体調管理の徹底、少人数による出勤体制の管理及び全社管理部門においては在宅での勤務環境を整える等の対策を講じてきました。

出退店・改装につきましては、山陽百貨店に「山陽柿安ダイニング」を出店する等計2店を出店するとともに、4店を改装、5店の退店を行いました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休業及び営業時間の短縮が大きく影響し、売上高は6,958百万円（前年同期比35.2%減）、営業損失は594百万円（前年同期は650百万円の営業利益）、経常損失は589百万円（前年同期は680百万円の経常利益）、四半期純損失は665百万円（前年同期は430百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期会計期間より報告セグメントの区分を一部変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、ご好評いただいている牛一頭分の部位をお値打ちにご提供する「一頭セール」の強化、並びに毎月9のつく日の「肉の日」企画を拡充する等、販売力の向上を図りました。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休業及び営業時間短縮の影響を受けましたが、一方で外食自粛による家庭内食需要が高まりをみせた事に呼応して、販売体制の強化に取り組みました。この結果、当事業の売上高は3,261百万円（前年同期比8.9%減）、セグメント利益は284百万円（同15.8%減）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、人気惣菜の詰め合わせ『おかずセット』等の強化に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う百貨店・駅ビルの休業及び営業時間の短縮が業績に大きく影響しました。出退店・改装につきましては、山陽百貨店に「山陽柿安ダイニング」を出店するとともに、3店を改装、1店の退店を行いました。この結果、当事業の売上高は1,774百万円（前年同期比46.4%減）、セグメント損失は243百万円（前年同期は285百万円のセグメント利益）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、『桜どら焼』『桜おはぎ』等定番アイテムの季節商品の強化に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う大型ショッピングセンター等の休業及び営業時間の短縮が業績に影響しました。出退店・改装につきましては、「口福堂イオン高岡店」を出店するとともに、1店を改装、2店の退店を行いました。この結果、当事業の売上高は1,431百万円（前年同期比32.8%減）、セグメント利益は16百万円（同94.4%減）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う商業施設等の休業により大部分の店舗が休業となり、業績に大きく影響しました。

出退店につきましては、2店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は311百万円（前年同期比77.9%減）、セグメント損失は389百万円（前年同期は7百万円のセグメント損失）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う百貨店等の休業及び営業時間の短縮が業績に影響しました。

この結果、当事業の売上高は179百万円（前年同期比43.6%減）、セグメント損失は25百万円（前年同期は37百万円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ2,088百万円減少し、18,045百万円となりました。

流動資産は2,184百万円減少し、9,661百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,116百万円及び売掛金の減少1,014百万円等であります。固定資産は96百万円増加し、8,383百万円となりました。主な要因は、繰延税金資産の増加237百万円と建物の減少104百万円及びソフトウェア仮勘定の減少19百万円等あります。

当第1四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ639百万円減少し、4,160百万円となりました。

流動負債は610百万円減少し、3,550百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少470百万円及び買掛金の減少344百万円と賞与引当金の増加180百万円等であります。固定負債は29百万円減少し、609百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の減少28百万円等であります。

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ1,449百万円減少し、13,884百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少1,450百万円等であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言は解除されましたが、現時点では将来の動向・回復度合いの予測が難しく、業績予想を合理的に算出することが困難と判断し、2021年2月期の業績予想については前回発表（2020年4月14日）に引き続き、未定とさせていただきます。今後合理的な業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年2月29日)	当第1四半期会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,087	6,970
売掛金	3,090	2,076
商品及び製品	277	236
仕掛品	181	185
原材料及び貯蔵品	186	175
その他	23	17
流動資産合計	11,846	9,661
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,212	3,107
土地	2,224	2,224
その他(純額)	744	720
有形固定資産合計	6,182	6,053
無形固定資産	278	270
投資その他の資産	1,825	2,059
固定資産合計	8,286	8,383
資産合計	20,133	18,045
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,239	895
未払法人税等	531	60
賞与引当金	364	544
役員賞与引当金	38	7
その他	1,987	2,041
流動負債合計	4,160	3,550
固定負債		
資産除去債務	570	542
その他	68	67
固定負債合計	639	609
負債合計	4,799	4,160
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	16,560	15,110
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	15,362	13,911
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△28	△26
評価・換算差額等合計	△28	△26
純資産合計	15,333	13,884
負債純資産合計	20,133	18,045

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)
売上高	10,745	6,958
売上原価	5,350	3,741
売上総利益	5,395	3,216
販売費及び一般管理費	4,744	3,811
営業利益又は営業損失(△)	650	△594
営業外収益		
受取利息	0	0
受取保険金	17	—
その他	13	6
営業外収益合計	32	6
営業外費用		
その他	3	1
営業外費用合計	3	1
経常利益又は経常損失(△)	680	△589
特別損失		
固定資産除売却損	5	3
減損損失	—	98
店舗閉鎖損失	—	125
その他	—	54
特別損失合計	5	281
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	674	△871
法人税、住民税及び事業税	243	32
法人税等調整額	1	△238
法人税等合計	244	△205
四半期純利益又は四半期純損失(△)	430	△665

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が全国に拡大し、当社店舗においても休業及び営業時間の短縮を実施しました。未だ予断を許さない状況が続いておりますが、5月下旬の緊急事態宣言解除以降、徐々に事態は沈静化の方向に向かっていると思われまます。このため、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損損失等に関する会計上の見積りを行うにあたっては、当第1四半期会計期間末時点で入手可能な情報に基づき、業績は第2四半期以降年度末に徐々に回復していくものと仮定を置いて判断しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,578	3,313	2,129	1,405	317	10,745	—	10,745	—	10,745
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	425	2	12	4	260	705	—	705	△705	—
計	4,004	3,316	2,142	1,409	578	11,451	—	11,451	△705	10,745
セグメント利益 又は損失(△)	337	285	297	△7	37	951	—	951	△300	650

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△300百万円には、各報告セグメントに配分していない全
社費用△311百万円及びその他調整額11百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグ
メントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益又は営業損失(△)と調整を行って
おります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,261	1,774	1,431	311	179	6,958	—	6,958	—	6,958
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	188	1	8	0	128	328	—	328	△328	—
計	3,449	1,776	1,440	311	307	7,286	—	7,286	△328	6,958
セグメント利益 又は損失(△)	284	△243	16	△389	△25	△358	—	△358	△236	△594

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△236百万円には、各報告セグメントに配分していない全
社費用△245百万円及びその他調整額9百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグ
メントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益又は営業損失(△)と調整を行って
おります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期会計期間より、事業管理部門の変更に伴い、惣菜事業に含めておりました一部の店舗につ
いて、精肉事業へ報告セグメントを変更しております。なお、前第1四半期累計期間のセグメント情報
は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ2百万円、95百万円計上
しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間において、98百万円であります。